

地域に生き、 世界と出会う



愛媛県西条市 ちろりん農園 代表 西川 則孝

WWOOF JAPAN

舞たうん編集係からいただいたお題は、『ちろりん農園とWWOOF（ウーフ）の取組み』だったのだが、残念ながら'07年度末で3年間続けたウーフホストを退いた。ほとんどがパソコンを介してという、ウーフアートのコミュニケーションがどうにも心身になじまなくなってきたというのが退会の理由である。

しかし、ウーフそのものについては概ね満足しており、3年間に15名の、海外ではドイツ、フランス、アメリカ、オーストラリア、国内でも各地から、農の世界に興味を持つ若い人達との出会いがあり、楽しい経験をさせてもらった。

WWOOFとは、Willing Worker On Organic Farmの頭文字を取ったもの



妻と畑で



WWOOFER 15号 赤羽貴理子さんと（第二縁開所にて）

で、『有機の農場で働きたい人』という意味になる。元々、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドなどで盛んであり、日本は数年前、北海道に事務局ができて次第に広まってきた。受け入れ先のウーフホストもすでに200軒を越えている。

「ウーフする人」即ちウーフアームもウーフホストも、年会費を払って事務局に登録すれば、ウーフを始めることができる。ウーフアームは、ホストの紹介リストを見て、電話やメールで連絡を取り、希望の日取りや滞在期間が折り合えば訪ねて行く。ウーフアームは1日数時間、農家の仕事を手伝い、ウーフホストは食事とベッドを提供する。つまり労働力と食住

タイPHD研修生チャユーさんと



の交換で、お金のやり取りは一切しないというシステムである。
もっと詳しく知りたい方は、ウーフジャパンを検索してみてください。

海外研修生の受け入れ

さて、ウーフとは別に、農をキーワードにしての世界の国々とのお付き合いは、10数年前から始まった。最初はオイスカやJVC(ジャパンボランティアセンター)を通じて、マレーシア、ラオス、ベトナムの研修生を受け入れたが、ここ10年ほどは、神戸に事務局を置くPHD(Peace, Health&Human Development)協会とのかわりが増える

なり、パプアニューギニア、タイ、インドネシア、ミャンマーなどの研修生を毎年1名、1〜2週間受け入れている。

彼らとの生活の中で、日本でのあたりまえが、アジアの国々ではいかに恵まれているか、また逆に、彼らの暮らしが、お金やモノは無くとも、どんなに豊かなものかを知るにつけ、経済というベクトル一辺倒の考え方の歪みを再認識することが多い。その意味で、研修生達との日々は、今の自分の立ち位置を確認し、1年分のぶれを気持ちの上で修正するための貴重な機会となっている。

新しい風

海外という全くの異文化に限らなくとも、歴史的に見て、地域の変化や改革のきっかけは、実は『よそもの』が持ち込む異なった生活文化や考え方と、それらによってもたらされる刺激によることが多い。地域づくりの起爆剤や触媒の役割を果たすのは、今までにないものを持ち込んだり発想したりする人材に他ならない。

小生もこの西条市丹原町に入ってから30年余りになる。ちろりん農園がここにあることが縁を生んで、この2、3年の間に、農を志すIターンやJターンの家族が近くに住むようになった。

Iターンで入植し、有機農よりさらに一歩踏み込んで、耕さない、草を引か



PHD研修生プットラさんとラジオバリバリで生放送

ないという自然農を実践しているのが、「まんがら農園」を営んでいる野満一家。30代前半のご夫婦と、一昨年自宅出産した長男の三人家族で、出身はご主人が熊本、奥さんは大阪である。もう一軒の「藤田家族」は、ご主人が西条市の非農家出身で、都会の出版社に10年ほど勤めた後の、一家4人でのJターンである。奥さんは、こちらも大阪出身。

両家族ともさすが若い世代で、インターネットを上手に活用し、同世代の消費者を確実に取り込みながら、生活そのものを楽しんでいる。彼らが新しい発想で地域に刺激を与え、新しい風を吹き込むことよって地域が変わる。そしてまた新しい人たちがやって来て…。そんな素晴らしい連鎖の輪の一つであることを幸せに思うとともに、農という世界の希望の芽が、彼らの時代に大きく育ち花開くことを願っている。

ウーフジャパン <http://www.woofjapan.com/main/>